

# 日米首脳会談 17、18日 首相「北問題などじっくり」

安倍晋三首相は2日の政府与党連絡会議で、トランプ米大統領と会談するため17、20日の日程で訪米すると明らかにした。会場は米南部フロリダ州にあるトランプ氏の別荘「マールアラゴ」で、首相は「北朝鮮問題をはじめ日米の関心事項について2日間にわたって、じっくり首脳会談を行いたい」と決意を述べた。

日米首脳会談は昨年11月のトランプ氏の来日以来、5カ月ぶり。フロリダでの会談は2度目となる。首相は5月末までに行われる米朝首脳会談に向け、トランプ氏と北朝鮮の核・ミサイル問題や拉致問題で政策のすり合わせを行う考えだ。

首相は会議で、核・ミサイル廃棄に向けた北朝鮮への「最大限の圧力の維持」の重要性を強調。首相と面会した自民党の河井克行衆院議員によると、首相は日朝首脳会談について「焦る必要はない」と述べた。

■日朝「焦る必要はない」  
安倍晋三首相は2日、自民党の河井克行・総裁外交特別補佐と首相官邸で面会した際、日朝首脳会談の模索について「焦る必要は全くない」と述べた。面会後、河井氏が明らかにした。首相は「北朝鮮から(首脳会談を)求めてくる状況をつくるためにこれまで圧力をかけ続けてきた。その方針に変わりはない」とも語ったという。

日朝会談「焦る必要はない」首相  
安倍晋三首相は2日、首相官邸で自民党の河井克行・総裁外交特別補佐と面会し、日朝首脳会談について「焦る必要は全くない」と述べた。北朝鮮への圧力を継続する方針に変わりはないとの認識を示した。